

中国四国Jークレジット制度オンライン勉強会（令和7年3月10日） 取組事例紹介 議事概要

○取組事例②：(株)アルプロン 奥村取締役

	<p>株式会社アルプロン (島根県雲南市) ○プロジェクト番号: P 3 0 2 ○運営・管理者: 株式会社アルプロン ○実施地域: 全国 ○プロジェクト概要: 水稲栽培における中干し期間の延長 ○認証期間の開始日: 2024/10/11</p>
---	---

皆さんお世話になります。アルプロンの奥村と申します。今日は貴重な機会いただきましてありがとうございます。

○会社の概要

2ページをお願いします。当社は島根県の雲南市にあります。実はプロテインの会社です。プロテインといつても、色んな形態があるので、当社の場合は、シェーカーに粉を入れて、そこに水を入れてシャカシャカして飲むというような商品がメインの会社です。

3ページをお願いします。どんなところでうちの商品扱われているかというと、ドンキホーテさんはじめ、コストコさん、ドラッグストアさんなどで取り扱っていただいておりまして、だいたい今、全国で1万店舗ぐらいに私どもの商品が並んでいるというプロテインの会社です。

○取組を始めたきっかけ

4ページをお願いします。なぜ、プロテインの会社が、農業のカーボンニュートラルに参入するのかというところなのですが。

5ページをお願いします。私どもの会社が、向こう5年で、対峙する社会課題を設定していくまして、その1つが、プロテインクライシスという、2030年にタンパク質の需要と供給のバランスが崩れて、タンパク質が不足するよという課題。もう1つが、カーボンニュートラル。プロテインの主な原料は、牛乳がチーズに変わる残渣物が実はプロテインになったり、大豆を絞って、それがプロテインになったりというようなものを原料としています。いずれの原料も、カーボンニュートラルの必要性のある領域の商品ということもあり、その環境を改善できる取組をしようと考えました。何からやろうかなと色々検討したところ、田んぼの中干し延長は、設備もいらないし、やりやすそうだなということもあって、はじめようという話になりました。

○プロジェクト登録からクレジット化までの流れ

6ページをお願いします。時系列で、今年何をやったかというような説明をします。プロテインの会社ですから、そもそも農業というものには全く縁のなかった会社です。去年1月に、2名の農業と酪農分野のカーボンニュートラルを勉強する専任チームを作りました。2名と少ない人数ではありますが、完全にこの業務だけをやる2名の専任チームをつくり、1ヶ月間、田んぼの中干しの方法論だとか、その影響度などを勉強して、2月に、農家さんにこういう取組があるんだと説明会をさせていただきました。4月に、私どもと農家さんとの取組を一気に加速させたのが雲南市さんとの協定です。私どもの属している雲南市さんと農業分野とか酪農分野における脱炭素化に伴って削減できたカーボンをJ-クレジットに変えていくという取組をアルプロンと雲南市でやっていきましょうという協定を結びました。これが非常に、今回の中干し延長のプロモーションにつながったと思っています。

7ページをお願いします。4月に協定を結んだ後、同時に、雲南市さんに色々な農家さんを紹介していただき、最終的に20農業法人と18個人となりました。個人は、法人で参加してもよかったです、土地の関係で、法人ではなく個人で参加することとなりました。エリア的には、雲南市と奥出雲町と飯南町の3つのエリアで実施しています。今回の中干し延長の対象は、コシヒカリときぬむすめが中心でした。

4月に参加者が内定して、1つ目に、農家さんと一緒にやった作業が、排水性の測定です。先ほど機械を使って、デジタルで測定していますかという質問がありましたが、私どもははじめてでもあり、手軽にできるこのアナログなものさしを使って測定しました。ものさしと看板さえあれば手軽に計測できます。将来的にはデジタル化も考えています。

8ページをお願いします。5月、だいたいゴールデンウィークぐらいに雲南市で田植えが行われます。そこから1か月から1ヶ月半後に中干しが開始されていきます。中干しの開始日と終了日に、農家さんに写真を撮ってもらいます。比較的綺麗に農家さんが撮っている写真を資料に掲載しています。中には、どこが排水溝かわからない写真もあり、そのような写真がSNSで送られてくると、2名の担当者が農家さんのところへ駆けつけて「ここで撮ってもらえませんか」と修正をかけて、最終的に綺麗な写真を揃えているという状況です。

9ページをお願いします。中干しが7月には終り、そこからデータの取りまとめを私どもが行います。本来であれば、まずプロジェクト登録を行って、農家の参加をはじめのかもしれません、私どもはプロジェクト登録を9月に申請しています。プロジェクト登録では、審査機関3社に見積依頼し、回答のあった2社のうち、スピード対応してくれた審査機関に審査をお願いしました。審査時間は半日ぐらい島根に来て、やってもらいました。私たちが作成する審査書類は比較的簡単かなと思えるぐらいものだったと思います。

10ページをお願いします。プロジェクトの登録が10月に完了し、今度は、今年3月のJ-クレジット制度事務局の第64回認証委員会にてクレジット認証を受けようと思うと、12月には検証が必要となるため、先ほどと同じ審査機関にお願いしました。審査は、私どもの島根の本店で、だいたい半日ぐらいの審査を受けました。クレジット認証の検証は、プロジェクト登録の妥当性確認に比べると、書類に関する質問が非常に細かく求められ、さらに、書類に書いてあるものと現地を照らし合わせるために現地での審査もありました。書類作成の難易度は、プロジェクト登録に比べるとかなり高かったと思います。一番手こ

ずっとのは、農地の特定でした。eMAFFの農地ナビをベースに突合するのですが、農家の書類の住所と突合ができない場もあり、そういう意味でレベルが高いと思いました。

11ページをお願いします。現在、J-クレジット制度事務局の第64回認証委員会に書類を提出しています。385トンのクレジットを想定しています。これがだいたい1年間を通じての、簡単な流れになります。

○参加した農家の声

12ページをお願いします。参加した農家の反応は大きく3つに区分できます。

1つ目は、農業従事者ですので、猛暑による影響、農作物に与える影響は、肌で感じていて、何かしたいんだけども、何をやってよいのかわからないと思ってる時に、温室効果ガスの削減の取組ができたということに対し、農家としても嬉しいという反応が一番多かったです。

2つ目は、担当者が頻繁に農家のところにお邪魔させていただきました。私たちは農家ではありませんので「農業のことでわからないことは全部農家さんに聞いていこう。」という考え方で、農家のところへ徹底的にコミュニケーションとりに行きました。さらに、担当者2人が、若い女性と若い男性で、農家さんから見ると孫みたいなもので、すごく可愛がっていただいて、農家さんから多くの情報を聞かせていただいたことは非常によかったです。

3つ目は、農家さんと一緒に、今回中干し延長に取組んでできた環境に優しいお米の出口と一緒に考える取組を色々とやっています。この出口戦略と一緒に農家さんと考えることは、私たちからすれば意外だったのですが、農家さんは、あまり出口に関して考えたことがなかったんです。でも一緒になって「こういう出口はどうか。」と色々とアイディアをだしていくと「非常に面白い。一緒に学んでいきたい。」と農家さんから言わされたところです。

ちなみに先ほどの質問があった収量については、雲南市に関して言えば、収量はほぼ前年並みでした。農家さんからも、収量も食味も前年並みと話を伺っています。その他、一部の農家さんからは、中干し延長で雑草が増えたという声があり、来年は農家さんと一緒に考えることとしています。

○プロジェクトのポイント

13ページをお願いします。この1年間の活動を通して、来期以降もフォーカスしたいポイントは、やはり環境配慮です。これから農業は環境に配慮して行っていかないと、今後、農業自体が継続できなくなると。そして、農家の収入があがらないと、いくら環境によいことをやっても、農家さんが続かないので、私たちは、2023年度を基準年として、5年で農家の収入を倍増する取組を一緒にすることとしています。実際に出口戦略だけじゃなくて、農地っていうのは、非常に色んな可能性を持っているアセットだと僕らは思っていますので、私たちの会社が、島根が本店で東京にもオフィスがあるので、東京の企業さんと島根の農業のアセットをマッチングすることによって収益をだすような形で取組を開始しているところです。環境配慮と収益倍増の2つにフォーカスしてビジネスを進

めていこうとしています。

14ページをお願いします。私たちが目指す世界觀です。プロテインの会社ですから、生産者がいて農産物をつくって、その農産部を原料に製品に変えていく会社、その製品を運ぶ会社、その製品を売る会社とプロテインのサプライチェーンというものがあります。このサプライチェーンの中で協力して、カーボンニュートラルをできないかっていうことを模索しています。例えば、小売店、食料メーカー、製造メーカーが抱える課題は、スコープスリー (Scope 3) の排出量削減が喫緊の課題になっています。削減のためには、自社の取組で削減するのは当然ですが、削減できない場合はクレジットを購入するようになります。そのクレジットを供給してくれている農家さんや酪農家さんに、資金的や技術的なサポートによってクレジットを創出していただいて購入する。さらに、お米や牛乳を私たちのサプライチェーンの中で高く買っていけるような仕組みを作っていく。このようなサプライチェーンをつくることによって農家さんが環境に優しい取組に専念でき、かつ農家の収入もあがっていくと考えています。以上です。

○質疑応答

水位センサー等のシステム導入の可能性

司会：参加者からの事前質問です。水位センサー等のシステム導入の可能性はありますか。

奥村：すぐにはないと思いますが、今後、カーボンクレジットは、やっぱりデータの正確性や、信憑性がものすごく重要だと思っていますので、デジタル化でしっかりと記録を残していくことは重要な取組だと思います。近い将来、私たちも入れていきたと考えています。

中干し延長を断念した事例

司会：参加者からの事前質問です。参加した農家さんで中干しをこれ以上やったら、収量に影響がでるという方はいなかつたでしょうか。

奥村：1名いました。私たちの取組は何回も言いますが、プロテインの会社で農業のド素人ですので、中干し延長の危険水域はわからない会社ですので、基本的に判断は農家さんに任せました。農家さんが、これ以上やると危ないと判断すれば、そこで取組を辞めて結構ですと説明しています。契約は結んでも、収量第一と説明しています。1名の場合は、山間部で水を1回抜いてしまうとなかなか入りにくいエリアで、ちょっと日照りが最初続いたこともあって、これ以上ちょっとやると収量に影響がでるということで、農家さんの判断で辞めています。それ以外の方は全員最後までやっています。